

つながる・つなぐ

麻生田小だより No. 5
令和6年9月2日
文責 校長：阪本 雅弘

【教育指針】礼・学・体

【校訓】かしこく 強く 美しく

【教育目標】いつまでも続く未来を創るために、自ら考動する子どもの育成

【学校経営スローガン】「子ども一人一人が輝き、笑顔があふれ、毎日来なくなる学校」



一人ひとりが落ち着いて安心して過ごせる学校にするために 2学期から New 日課 start します！

40日間の夏休みが終わり、さあ、2学期のスタート！というところに台風10号の襲来により、2日間の臨時休校となり、9月2日ようやく始業式を迎えました。本日ようやく元気な子どもたちの笑顔を見ることができ、安心しました。2学期もよろしくお願いいたします。

<ねらい①>モジュール学習の時間を取り入れていきます。

Q1:「モジュール学習」とは？ A1:授業1単位時間の45分を3分割し、15分を3回に分けた学習をします。

Q2:「モジュール学習」をする効果は？

A2:①15分間の短時間なので、子どもたちが集中して学習に取り組むことができます。基礎学力の定着、学力向上をねらいます。

②授業時数として確保でき、時間割の工夫ができます。そのため、下校時間が早くなり、放課後教師の会議の時間、授業の準備のための時間が確保でき、子どもたちの支援のための対策、授業の質の向上が期待できます。児童と教師にとって、Win-Winの関係です。

<ねらい②>子どもたちにとって、安全で安心な、落ち着いた学校生活となることを目指します。

授業の間の休み時間が5分間と短くなりますが、中休み(15分)、昼休み(20分)に遊ぶ時間を確保し、子どもたちがストレス発散できる時間を確保します。また、「給食⇒そうじ⇒昼休み」の流れにすることで、給食後の後片付け、そうじをクラスのみんなで確実にやり、時間の区切りをつけ、きれいにした環境で午後の授業に取り組むことができます。

<ねらい③>先生方がこれまで放課後の時間も多くの業務に費やしていた時間を、会議や授業の準備に使うことができ、授業の質の向上、効果的な教育活動づくりができます。

子どもたちの下校時間が早くなり、子どもたちにとっては地域や家庭で過ごす時間が長くなります。そのため各ご家庭で子どもたちの見守りをしていただいたり、放課後の過ごし方についてももしっかり子どもたちにお話をしていただいたりすることをお願いしなければなりません。先生方は、これまで会議や児童対応、保護者の方との相談、事務処理、授業準備等の業務加担で超過勤務になっていました。放課後の時間を有効活用し、授業の質の向上を目指すことで、子どもたちの学力向上をねらいます。私たち教職員が元気でなければ、子どもたちに元気になってもらえません。「応援される学校」「応援したくなる学校」を目指していきますので、ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

「全国学力・学習状況調査」(6年生)の結果から考える(危機感を持って…)

7月26日に全国学力・学習状況調査の結果(6年生)が発表されました。「学校に行くのは楽しい」64%(全国平均84 R5比-30)、「英語の勉強が好き」53%(全国平均値69 R5比-21)、「英語の勉強は大切」75%(全国平均値92 R5比-15)、と本校の6年生の回答結果は、全国、熊本県の平均値を大きく下回っているところがありました。心配になったところが、家庭での勉強の時間が「30分より少ないまたは全くしない」の割合が全国、県平均よりも大幅に多かったことです。もうひとつ気になる点が、「普段の1日当たりのゲーム、スマホ時間」です。4時間以上26%、3時間以上22%この割合も全国、県平均を大幅に上回っています。つまりおうちで勉強しない人の割合が多く、ゲーム、スマホをしている人が半分近くいるということです。文科省が児童生徒へのアンケートの回答と正答率の関係について分析したところ、携帯電話やスマートフォン、ゲーム機の利用時間が長い子ほど正答率が低く、新聞を読む頻度が高い子ほど正答率が高いといった結果が出ました。本校児童は「ほぼ毎日新聞を読む」0%、「ほとんど、全く読まない」87%という結果でした。今、家庭で新聞を取っていないところも多く、新聞を読む習慣がかなり減少してきています。インターネットで自分が興味・関心がある事について検索すると、次から「あなたが好きそうな内容」が自動的に出てきます。ある意味、興味・関心が広がっていきません。今回の調査結果から、学習状況を見直し、新聞や本の活字を通して学ぶ機会を広げると成績アップが期待できそうです。将来をしっかり見据えて…。